

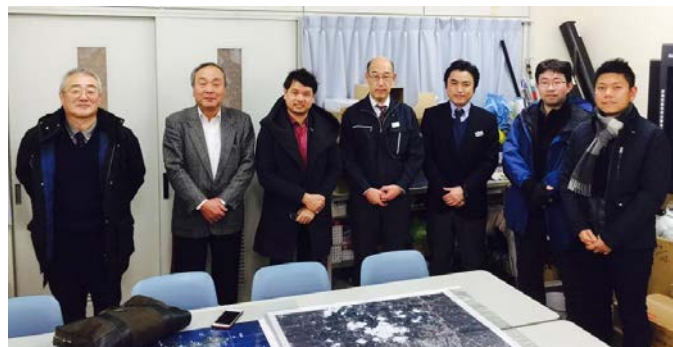
東日本大震災の被災地・気仙沼市で開発中の建物被災想定アプリケーションの操作・体験実験を実施しました(2016/1/19)

テーマ：東日本大震災、津波、建物被害、モバイルアプリケーション
場所：宮城県気仙沼市

平成 28 年 1 月 19 日に気仙沼市で開発中の建物被災想定アプリケーションの操作・体験実験を実施しました。建物被害に関する研究は災害科学国際研究所、東京工業大学、ロンドン大学との連携で当研究所の創立以来、共同研究を行ってきました。これは東日本大震災の建物被災データ、津波浸水深を利用し、被害関数の形で被害想定一つのツールが構築されています。現在では、その被害関数を実践的に幅広く使えるようにタブレットやスマートフォンのアプリケーションを開発しています。このアプリケーションの内容は GPS より現在の場所の特定ができ、対象の建物を選択した後、住所が表示されます。次に東日本大震災時の浸水深が示され、さらに利用者が想定する浸水深が選べます。その後、建物の階数、建物の構造、建物の機能を選択すると、当研究所が構築した津波被害関数によって選択中の建物の被害想定結果が表示されます。このアプリケーションの改善のために当研究所のサッパシー アナワット准教授（災害リスク研究部門）、安倍 祥助手（寄附研究部門）、熊谷 成一技術補佐員、リーラワット ナット氏（東京工業大学）が、東日本大震災の被災地であり、建物被災データの提供を受けた気仙沼市において操作・体験を実施しました。今回の操作・体験実験には、気仙沼市危機管理課の皆様や、震災当時の危機管理課長にご協力いただきました。現地で分かった情報や意見など今後のアプリケーション改善には大変重要なアドバイスをいただきました。



アプリケーション体験の様子



気仙沼市危機管理課訪問の様子

文責：サッパシー アナワット（災害リスク研究部門）、安倍 祥（寄附研究部門）